

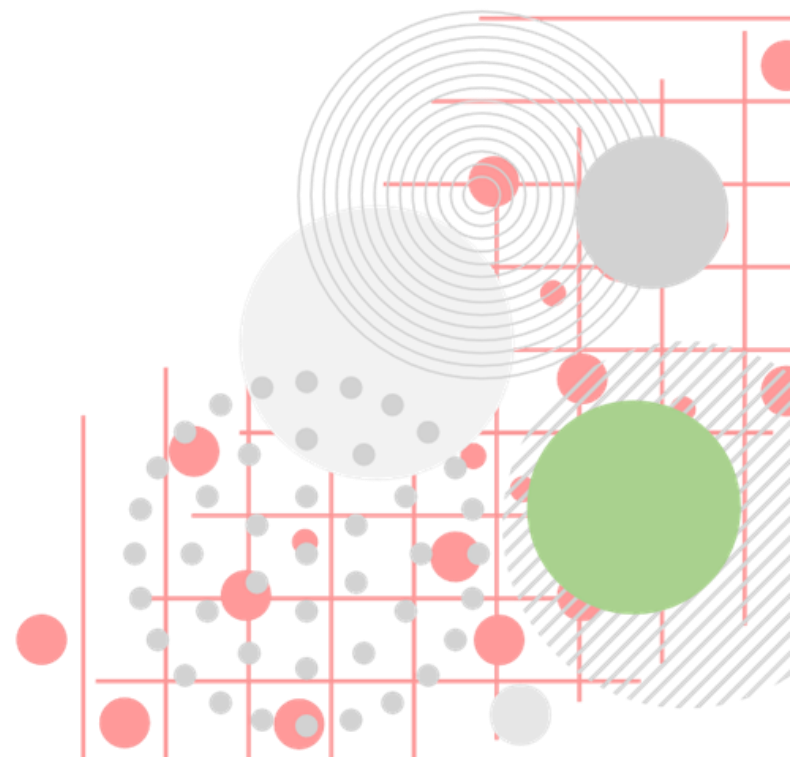
札幌市火葬場・墓地のあり方推進協議会

第7回 総会

【本日の議題】

- ・ 意識醸成の取組みについて
- ・ 火葬場・墓地の取組みについて
- ・ 次期運営計画の策定について
- ・ 新たな料金制度の検討について

令和6年4月30日



前回総会(2023.8.28)のまとめ

【第2期協議会の進め方】

総会での議論を中心とし、部会は必要に応じて設置する。

協議会が主体となって行う「意識醸成」の取組みを検討、実施する。

「火葬場」「墓地」の取組みについては、進捗確認とそれに対する意見交換を行う。

【意識醸成の取組みについて】

次の議題で説明

【火葬場について】

予約システムの構築、里塚斎場の建替・改修手法、

火葬場使用料の検討、山口斎場の次期運営事業、残骨灰等の無害化等処理

【墓地について】

合葬墓の運用方法の検討、霊園管理料の検討



令和5年度の意識醸成の取組について

【背景】

⇒ 別紙 1

- ・ 葬送に関する市民の困りごとは多岐に渡っており、アンケートなどでは、「関心はあるが、何をしたいかわからない」という声が多い
- ・ 前回総会にて、「パネル展では、市民の関心は市の取組みより、葬儀の習慣などに関することの方が、ニーズがあった」との御意見
⇒ 葬送について考えていただくきっかけの提供として「終活セミナー」を開催

【終活セミナー概要】

- ・ 日時：令和6年1月23日、24日
- ・ 参加人数：合計38人
- ・ 講演

『もしも、おひとり様になったら～自分でそなえる終活のはなし～』

認定NPO法人 葬送を考える市民の会 代表理事 澤 知里 氏

『押さえておきたい葬儀社選びのポイント～ 一般葬・家族葬・密葬・直送・一日葬 ～』

北海道葬祭業協同組合 副理事長 中島 浩盟 氏

『その情報は大丈夫？～ 自分に合った終活情報を選ぶために ～』

元北海道新聞編集委員 福田 淳一 氏



令和5年度の意識醸成の取組について

【 参加者から寄せられた質問 】

- ・ 市の合同納骨塚の利用条件は？
- ・ おひとりさまはどのように葬送の準備をすればよいか？
- ・ 葬儀社選びは、いつの時点で行うのがよいか？
- ・ 施設に入居する高齢家族が、偏りなく情報を得るにはどうしたよいか？…など

⇒ 具体的な質問が多く、困りごと解消の場として効果的であったが、
反面、普段は気軽に質問できる先がない様子も伺える

【 参加者の声 】

- ・ アンケート回答者全員が「参加してよかった」「今後の参考となった」と回答
- ・ 「終活に関する困りごと」では、「良い業者かどうか見分けられない」に次いで、「どこで情報を得ればいいかわからない」と回答した人が多い
- ・ 関心が高い取組としては、「エンディングノートの作成」を選択した人が最も多く、今後やりたいと考えている人を含めると90%の人が選択した

【 今後の課題 】

- ・ 信頼できる情報の確保
- ・ 効果的な情報提供手段の確立



市民意識調査について ①

【インターネットアンケート】

⇒ 別紙 2

成果指標の現状及び市民意識の変化の有無などを検討するため、令和3年度アンケートと同様に実施

- ・ 実施期間 : 令和6年3月
- ・ 回答者数 : 480人【内訳 30代以下120人、40代120人、50代120人、60代以上120人(男女比1:1)】

成果指標

葬送に関する行動をしている市民の割合 38.6%⇒50.0%

Q:自身や家族・親族が亡くなった時のことについて考えたことがあるか？

【令和3年度】

ある：359人/480人 (74.8%)

ない：121人/480人 (25.2%)

⇒考えたことがない理由 (回答114人中)

- ・ 何を考えたらよいかわからない 40人 (35.1%)
- ・ 亡くなった時のことを考えたくない 31人 (27.2%)
- ・ 縁起でもない 27人 (23.7%)
- ・ まだ必要ない 27人 (23.7%)

【令和5年度】

ある：290人/480人 (60.4%)

ない：190人/480人 (39.6%)

⇒考えたことがない理由 (回答188人中)

- ・ 何を考えたらよいかわからない 78人 (41.5%)
- ・ 亡くなった時のことを考えたくない 51人 (27.1%)
- ・ まだ必要ない 34人 (18.1%)

Q:自身や家族・親族が亡くなった時に備えて、実際に行動したり準備したことはあるか？

【令和3年度】

している：133人 (全体中27.7%、有効回答中38.6%)

していない：212人 (全体中44.2%、有効回答中61.4%)

不明：135人

⇒していない理由 (回答196人中)

- ・ まだ必要ない 123人 (62.8%)
- ・ どうしていいかわからない 72人 (36.7%)
- ・ 時間がかかるから 24人 (12.2%)

【令和5年度】

している：158人/480人 (32.9%)

していない：322人/480人 (67.1%)

不明：0人

⇒していない理由 (回答276人中)

- ・ まだ必要ない 109人 (39.5%)
- ・ どうしていいかわからない 98人 (35.5%)
- ・ 考えたことがない 35人 (12.7%)

市民意識調査について ②

【指標達成度調査】

市が行う各事業の効果に対する市民意識調査において、葬送に関する設問を加えた

- ・ 実施期間 : 令和6年2月
- ・ 調査方法 : 札幌市公式LINEから登録者へ案内を行い、オンライン回答
- ・ 回答者数 : 3259人

【内訳 30代以下564人、40代868人、50代921人、60代以上906人】

Q:自身や家族・親族が亡くなった時に備えて行動・準備していることはあるか？

- ・ ある 1571人 48.2%
- ・ ない 1688人 51.8%

Q:行動・準備していない理由は？

【 30代以下 】

- ・ まだ早い 210人
- ・ どうしていいかわからない 199人
- ・ 費用がかかる 93人

【 40代以上 】

- ・ どうしていいかわからない 634人
- ・ まだ早い 460人
- ・ 費用がかかる 286人

- ⇒ 「どうしていいかわからない」層への情報提供に係る取組みが必要
- ⇒ 年代別アプローチも要検討

令和6年度の意識醸成の取組について

【終活行動を支えるネットワーク構築事業】

まちづくり戦略ビジョン
アクションプラン2023掲載事業

令和5年度の取組み結果などを踏まえ、

まずは今、葬送を含め“終活”を意識している人が行動しやすい環境を整える

- 札幌市役所各部署でどのような業務を行っているかわかりにくい
⇒ “終活”に関連する部署間でネットワークを構築し、互いの情報を共有
- 良い業者かどうか見分けられない
⇒ 他の公的機関や民間事業者等にもネットワークを拡大し、情報量を増やす
(ただし、良い業者かどうかを見分けることは困難と考えている)
- どこで情報を得ればいいのかわからない
⇒ 集まった情報を、わかりやすく市民に提供するツールを作成

【令和6年度の具体的取組み】

情報提供のツールとして、終活ハンドブックを作成

- ⇒ 実用的なハンドブックとするため、各区で終活のワークショップを開催して、市民が必要とする情報、実際の困りごとなどを把握し、反映させる

＊ 葬送を自分事として捉える意識の醸成や、
実際に“終活”に取り組むきっかけとなることも期待

- ⇒ ワークショップにおいて取組んでもらうテーマ、
実用的なハンドブックのアイデアなどご意見賜りたい

火葬場の取組みについて

⇒ 別紙 3

【重点項目】

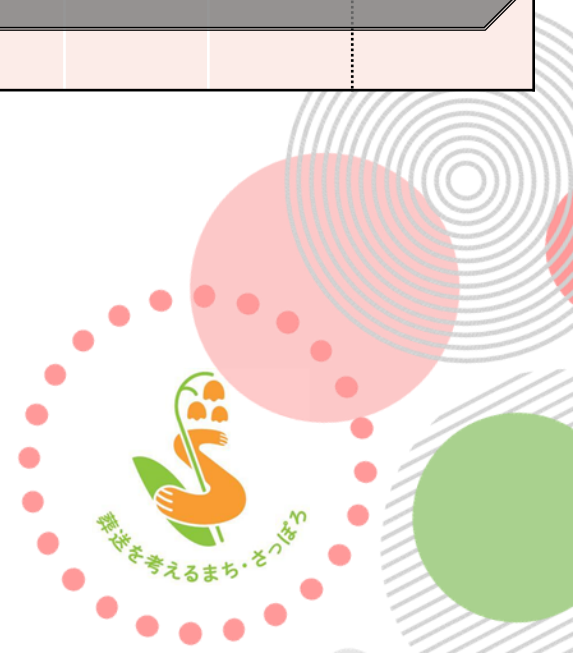
年度	2023			2024				2025				2026
月	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6
工程	イ) 火葬場の友引開場											
	実施方法検討 関係者との調整			予約システムの効果検証、 先行事例調査等の実施				事前調査等を踏まえた 制度設計、関係機関周知				本格 実施
工程	ウ) 火葬場の予約システムの導入											
	システム構築 試行実施			本格実施・効果検証								

○ 友引開場

- ・アンケート等を通して市民意識調査
- ・今後、予約システム運用開始による効果等を検証
- ・人員配置、必要経費等を検討し関係先と調整

○ 予約システムの導入

- ・試験運用期間を設け、葬祭事業者への説明会を開催
- ・令和6年3月より予約システム運用開始
- ・適宜効果的な運用方法を検討し、反映



墓地の取組みについて

【重点項目】

年度	2023			2024			2025			2026			
月	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	7～9	10～12	1～3	4～6	
工程	ウ) 市営霊園及び旧設墓地の無縁墓への対応												
	無縁化予防の啓発・無縁墓の使用者特定(縁故者の特定)												
	無縁墓の対策手順を検討				手順精査・試行								運用
	キ) 市営霊園の新たな管理料制度												
	他都市調査 市民意見聴取		新管理料 制度の検討		条例案作成		条例 改正	体制構築・市民周知			新管理料 制度施行		

○ 無縁墓への対応

- ・戸籍調査等の継続実施
- ・無縁墓の認定、遺骨の改葬、墓石の扱いなど、無縁墓への対応に関する一連の手順の検討を進めつつ、当面の先行実施に向けて具体的な区画の検討などを行う

○ 市営霊園の新たな管理料制度

- ・令和5年度、市民アンケート等を実施(詳細は後段で報告)
- ・アンケートで把握した市民意見等を踏まえ、新管理料制度の検討を進めるとともに、市民の理解を得るための取組みや、議会議論、関係部局への説明・調整を行う



次期計画の策定について

「(第一次)札幌市火葬場・墓地に関する運営計画」

計画期間: 令和4年(2022年)4月 ~ 令和8年(2026年)3月

年度	2023			2024			2025			2026		
月	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6
工程					現計画評価・次期計画検討							次期計画
	第2期協議会							第3期協議会				

【次期計画策定に向けた流れ】

- 現計画の評価
- ↓
- 基本構想における目標に対する次期課題の抽出
- ↓
- 課題ごとの取組み検討
- ↓
- 次期計画の策定



新たな料金制度の検討について（令和5年度実施事業）

【葬送ワークショップの開催】

⇒ 別紙 4

以下2点を主な目的として、市民参加型イベントを開催

- ・ 火葬場や墓地の「持続可能な運営」に向けて、現状や課題を市民に知っていただく
- ・ 対応策や市民自身の葬送に対する意識、ニーズ等について意見をうかがう

- ・ 日 時：令和5年11月23日(木・祝)
- ・ 参加人数： 午前27名、午後26名
(50代以下22名、60代10名、70代以上19名、未回答2名)
- ・ 内 容：施設見学会（里塚斎場・里塚霊園）
ワークショップ（グループヒアリング）

○ グループヒアリングのトークテーマ

- ・ 葬儀を経験して困ったこと、大変だったこと
- ・ 火葬費受益者負担の導入／金額のイメージ
- ・ 墓地等に関する困りごと
- ・ 終活状況と終活促進アイデア

その他、計7つのテーマを元にグループディスカッションを実施



【アンケート調査】

○ 火葬場利用者

実施時期:令和5年12月

対象:令和4年度に札幌市の火葬場を利用したことがある札幌市民500名

回答数:226票(回収率45.2%)

○ 市営霊園利用者

実施時期:令和5年12月

対象:平岸霊園、里塚霊園、手稲平和霊園の3霊園の使用権者500名

回答数:162票(回収率32.4%)

○ 市民アンケート

実施時期:令和6年1月

対象:札幌市住民基本台帳より無作為抽出した18歳以上の札幌市民500名

回答数:153票(回収率30.6%)

新たな料金制度の検討について

【ワークショップにおける火葬場有料化に対する意見】

参加者意見63件のうち、「受益者負担に賛成」する意見は約8割の50件、
「現状のまま市民負担無料を継続」とする意見は13件寄せられた。

○ 有料化に賛成した方の提案・意見

- ・ 有料にする場合も、収入に応じた価格設定・減免・控除を設ける
- ・ 燃料費や今後の修繕費を考えると、受益者負担が必要
- ・ かかる経費を明確にし、必要で適正な料金を設定する
- ・ 特別控室や合葬墓の料金等のセット価格や、割引・特典等をつける
- ・ 費用としては、5千円～1万円くらいのイメージが多い

○ 有料化に反対した方の提案・意見

- ・ 経費の明確化、コストカット、予算充当など、改善策を検討する
- ・ 特別控室の利用率を向上させて、収益のアップを目指す
- ・ 火葬料を有料にせず、特別控室の使用料等をあげる



新たな料金制度の検討について

【アンケートにおける火葬場有料化に対する意見】

Q:市民の火葬料金について、あなたはどのくらいまでなら負担してもよいと思いますか。

○ 市民アンケート



○ 火葬場利用者アンケート



- ⇒ 2万円以下の利用料に対する意識は、回答層が異なっても同様
- ⇒ 直近で火葬場を利用した人の方が、費用がかからない現状の維持を望む声が多い

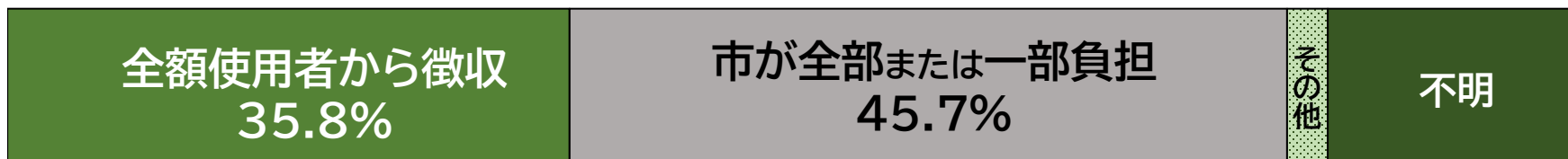


新たな料金制度の検討について

【アンケートにおける市営霊園維持管理費用に対する意見】

Q:市営霊園の維持管理費用を今後どうしていくべきと思いますか？

○ 市民アンケート

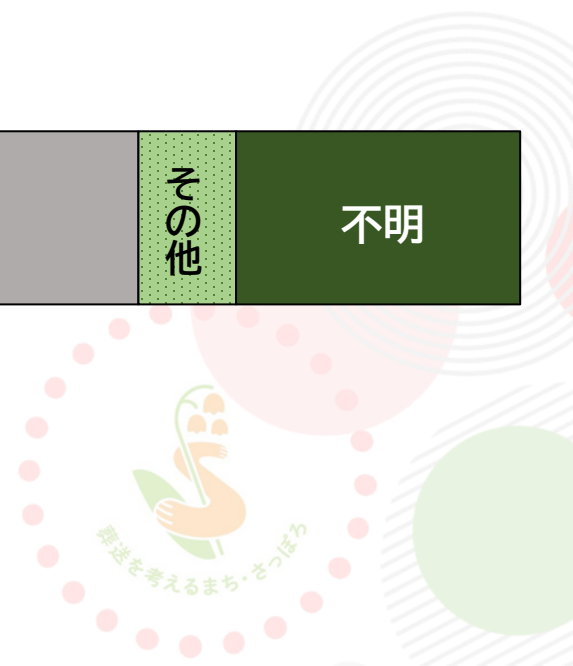


○ 市営霊園使用者アンケート



全額使用者から徴収 11.3%

⇒ 霊園使用者であるかどうかにより、
維持管理費負担に対する捉え方は異なる様子である



新たな料金制度の検討について

火葬場使用料や霊園管理料について、
これまでにワークショップやアンケートでいただいた市民意見も踏まえて、
「制度設計の考え方」を整理し、引き続き市民議論を展開していく。

【制度設計の考え方】

○ 火葬場使用料見直しについて

- 市民：ランニングコストの一部を負担。
控室はアンケート結果も踏まえて値下げし、使用率の向上を図ることにより、
ゆったりと待ち時間を過ごしていただき、ロビーの混雑緩和にもつなげていく。
なお、控室を2室利用するケース等もあるため、無料とはしない。
- 市民以外：施設整備を伴わないため、ランニングコストの増加分のみ火葬料に加味
(控室は据え置き)



新たな料金制度の検討について

【制度設計の考え方】

○ 市営霊園の新管理料制度について

- 計画的に改修を進めて、安全快適に墓参できる環境を整えるため、計画改修を含めた運営費用を負担していただくが、過度な負担とならないようにする
 - ⇒ 徴収単位を m^2 単位から区画単位に変更
- 無縁化を抑制するため、徴収頻度は毎年1回を軸に検討するほか、承継の促進や、承継者不在の場合は墓じまいの円滑化に留意する
- 管理料の滞納や無縁墓については、負担の公平性等の観点から、使用許可の取消・改葬・撤去を円滑に進めるための方策を検討する
 - ⇒ 許可取消要件に滞納年数（3年程度）を設定
 - ⇒ 墓石撤去費用は原則使用者負担

⇒ 新たな料金制度の考え方について、ご意見を賜りたい。



葬送を考えるまち・さつばち

次回総会の予定

【開催時期】

- ・ 令和6年8月 予定

【予定議題】

- ・ 次期運営計画の策定について
- ・ 各取り組みの進捗について

